

飲

食

# 関連産業の動向

(2015年基準)

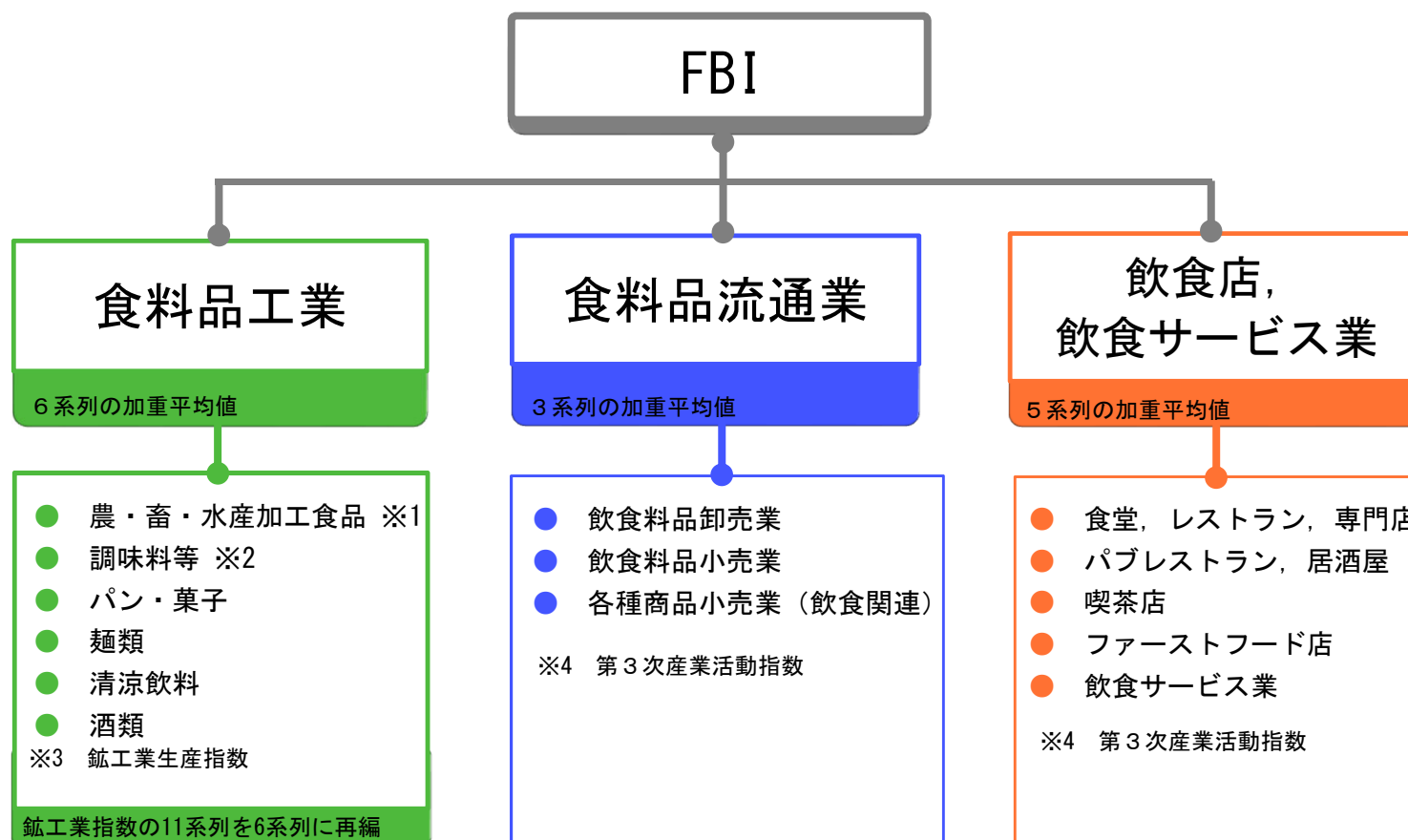
**FBI** 2021年上期

回復途上のフード・ビジネス、  
2021年上期は再び低下へ

経済解析室  
2021年10月

# フード・ビジネス・インデックス（FBI）のしくみ（2015年基準）

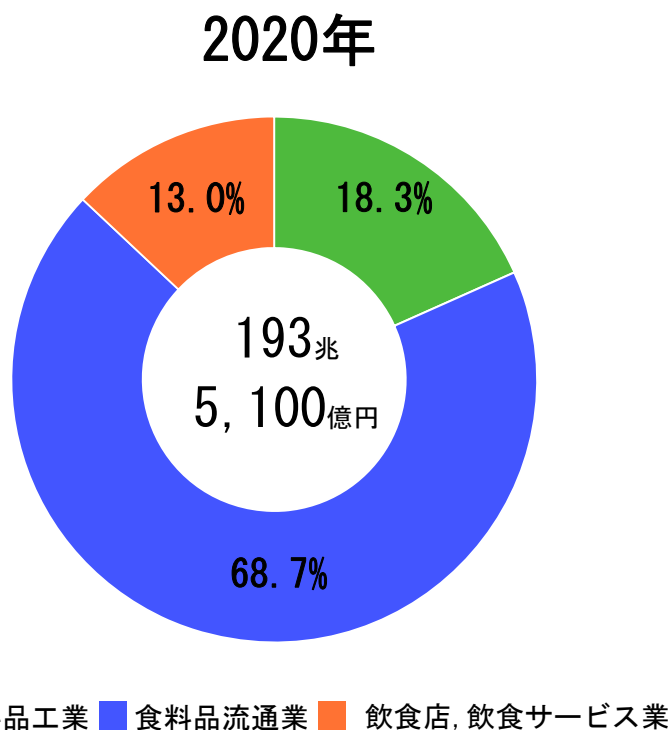
- フード・ビジネス・インデックス（Food Business Index）は、飲食料関連産業全体の活況度合いを把握できるように試算した指標。
- 「食料品工業」、「食料品流通業」、「飲食店、飲食サービス業」の3業種を付加価値額の割合で求めた比で加重平均した指数。



※1 肉加工品、乳製品、水産・野菜食料品 ※2 食用油脂、調味料、糖類、製粉・調整粉  
※3、4 上記図表についての詳細は、最終頁【掲載図表の補足事項】の（注1）を参照  
（資料）経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」より作成（試算値）

# フード・ビジネスの名目事業規模（2020年、試算値）

- 2020年のフード・ビジネス全体の名目事業規模は、約193兆円。
- 食料品工業が約35兆円、食料品流通業が約133兆円、「飲食店, 飲食サービス業」が約25兆円。



## 名目事業規模（試算値）

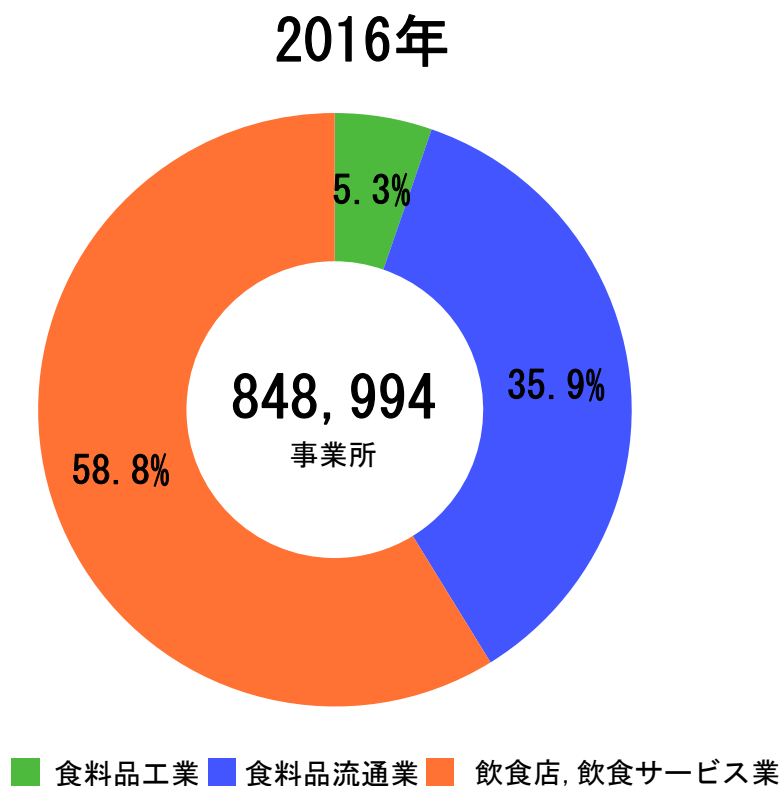
	2019年	2020年
フード・ビジネス全体	189兆6,100億円	193兆5,100億円
■ 食料品工業	36兆2,200億円	35兆4,500億円
■ 食料品流通業	120兆800億円	132兆9200億円
食料品関連卸売業	72兆9,400億円	86兆2,800億円
食料品関連小売業	47兆1,400億円	46兆6,300億円
■ 飲食店, 飲食サービス業	33兆3,200億円	25兆1,400億円

※上記図表についての詳細は、最終頁【掲載図表の補足事項】の(注2)を参照

(資料) 経済産業省「工業統計調査」、「商業動態統計調査」、「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」、日本銀行「企業物価指数」、日本フードサービス協会「令和元年外食産業市場規模推計について」より作成（試算値）

# フード・ビジネスにおける事業所数（2016年調査）

- 2016年、フード・ビジネスに携わる事業所数は、約85万事業所。
- 「飲食店, 飲食サービス業」が約50万事業所で5割以上を占めている。次いで食料品関連小売業が約25万事業所。



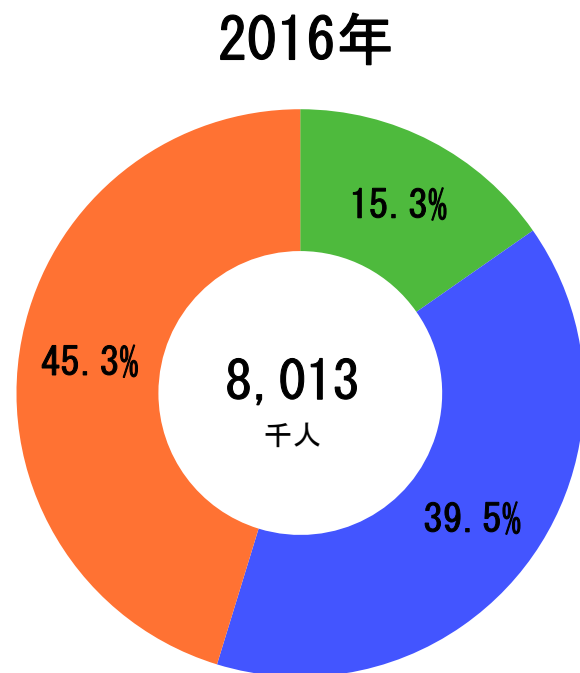
事業所数（2016年）	
フード・ビジネス全体	848,994
■ 食料品工業	44,611
■ 食料品流通業	304,841
食料品関連卸売業	55,971
食料品関連小売業	248,870
■ 飲食店, 飲食サービス業	499,542

※上記図表についての詳細は、最終頁【掲載図表の補足事項】の(注3)を参照

(資料) 総務省・経済産業省「平成28年経済センサスー活動調査」より作成

# フード・ビジネスにおける従業者数（2016年調査）

- 2016年、フード・ビジネスに従事する従業者数は約801万人。
- 「飲食店, 飲食サービス業」が約363万人、食料品関連小売業が約253万人。



■ 食料品工業 ■ 食料品流通業 ■ 飲食店, 飲食サービス業

## 従業者数（2016年、千人）

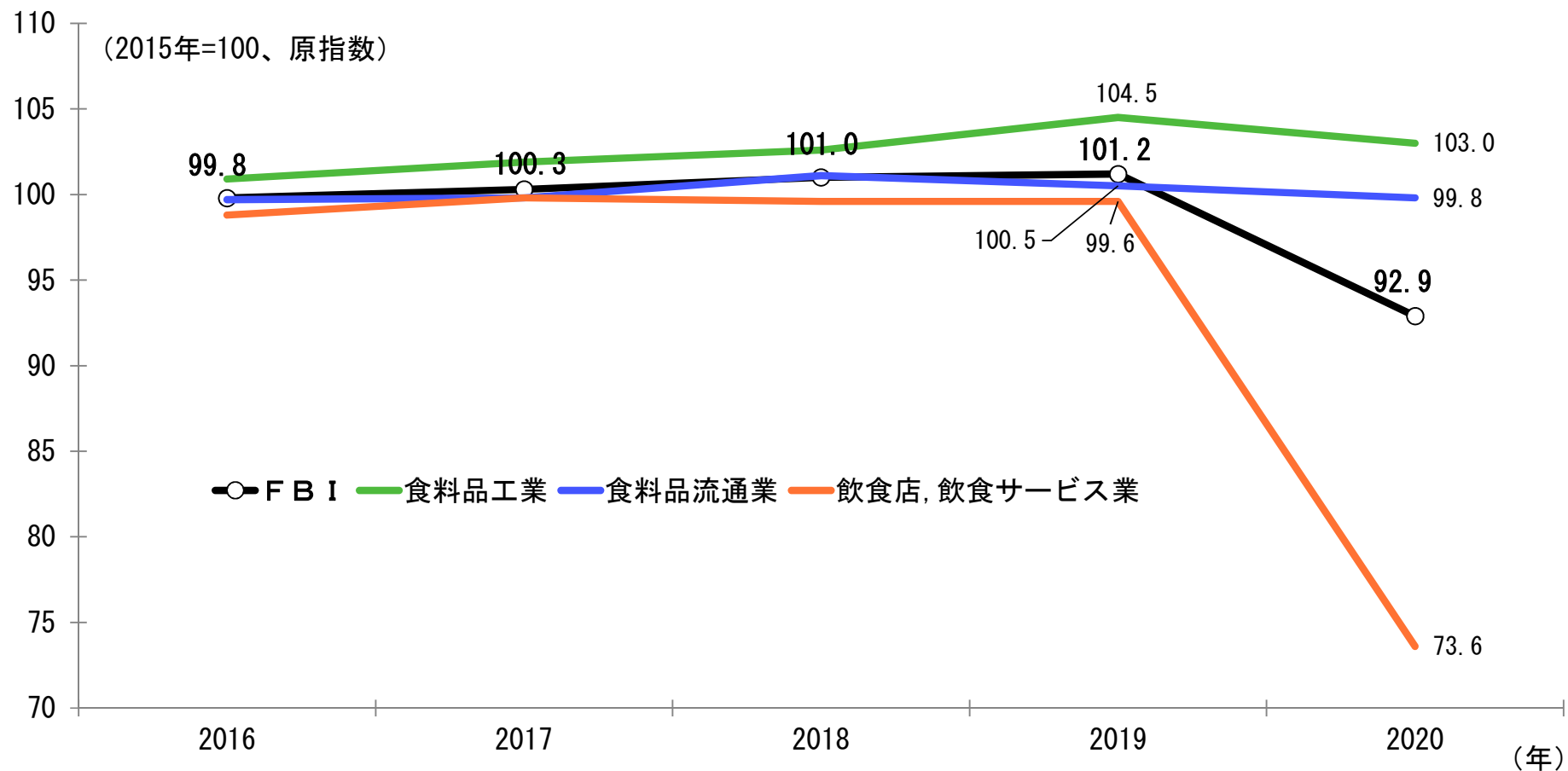
フード・ビジネス全体	8,013
■ 食料品工業	1,222
■ 食料品流通業	632
食料品関連卸売業	2,533
食料品関連小売業	2,533
■ 飲食店, 飲食サービス業	3,626

※上記図表についての詳細は、最終頁【掲載図表の補足事項】の(注3)を参照

(資料) 総務省・経済産業省「平成28年経済センサスー活動調査」より作成

# FBI (フード・ビジネス・インデックス) 年単位の推移

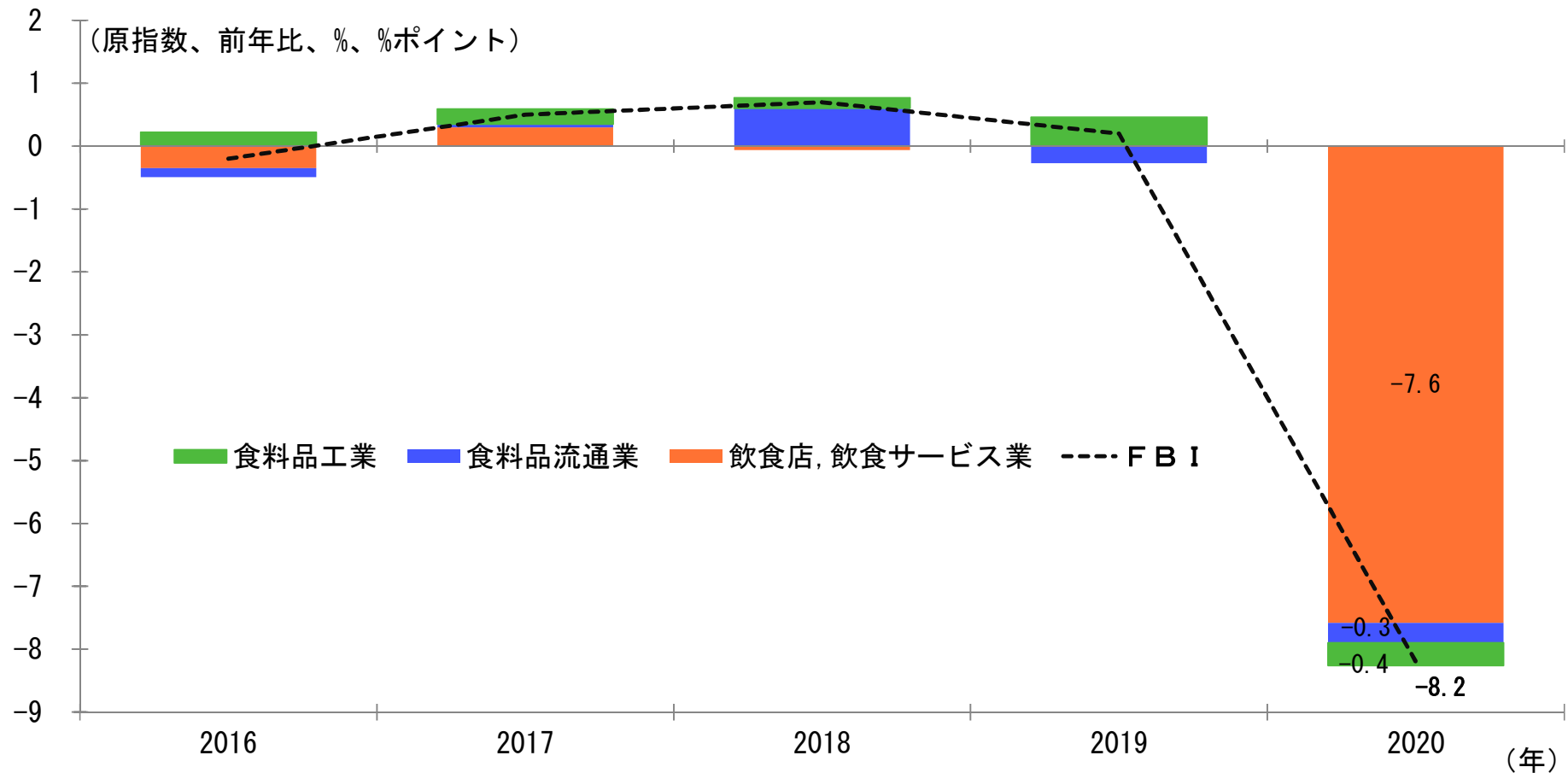
- 2020年のFBIは指数値92.9、前年比-8.2%と4年ぶりの低下。
- 内訳3業種は、食料品工業は前年比-1.4%、食料品流通業は同-0.7%、「飲食店, 飲食サービス業」は同-26.1%とともに低下。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」より作成 (試算値)

# FBIの前年比伸び率に対する影響度合い

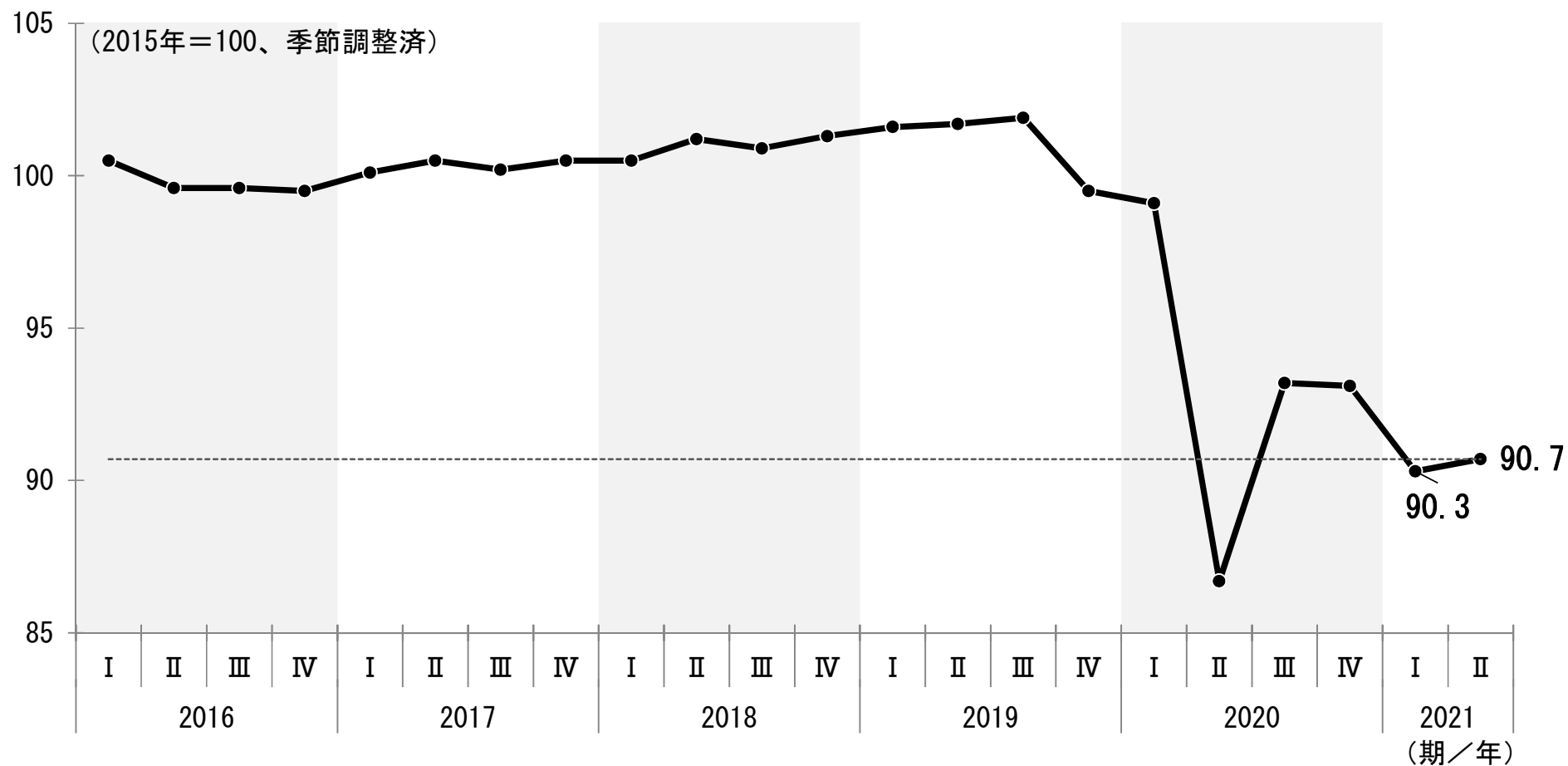
- 2020年FBIの前年比-8.2%に対して、「飲食店, 飲食サービス業」が-7.6%ポイント、食料品工業が-0.4%ポイントの低下寄与。
- 2020年は「飲食店, 飲食サービス業」の低下の影響が大きかった。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」より作成(試算値)

# FBI（季節調整値）の推移（四半期）

- 2021年上期のFBIは、第1四半期は前期比-3.0%と大きく低下し90.3となったが、第2四半期は指数値90.7、前期比0.4%と3期ぶりに上昇。

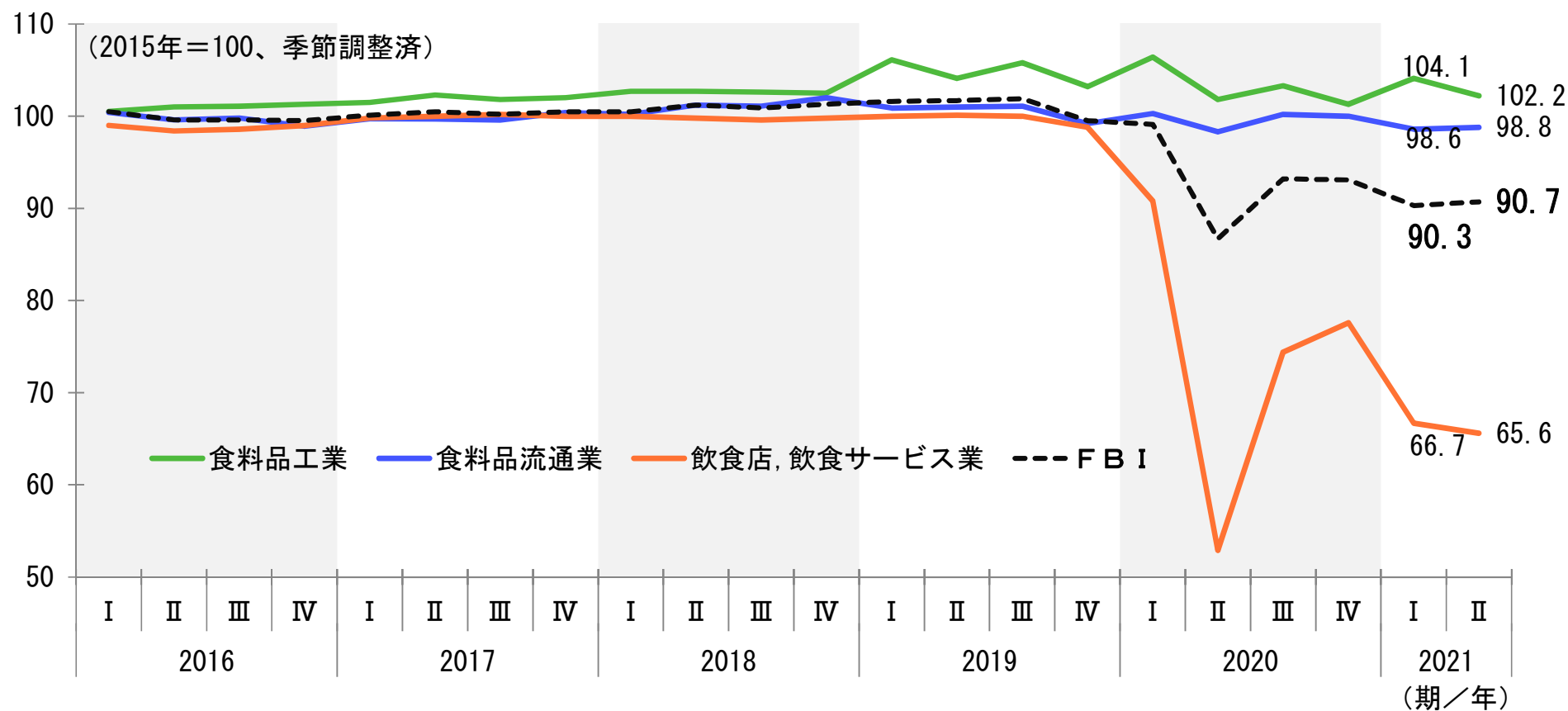


(資料) 経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」より作成 (試算値)



# FBI（季節調整済）の内訳構成業種の推移（四半期）

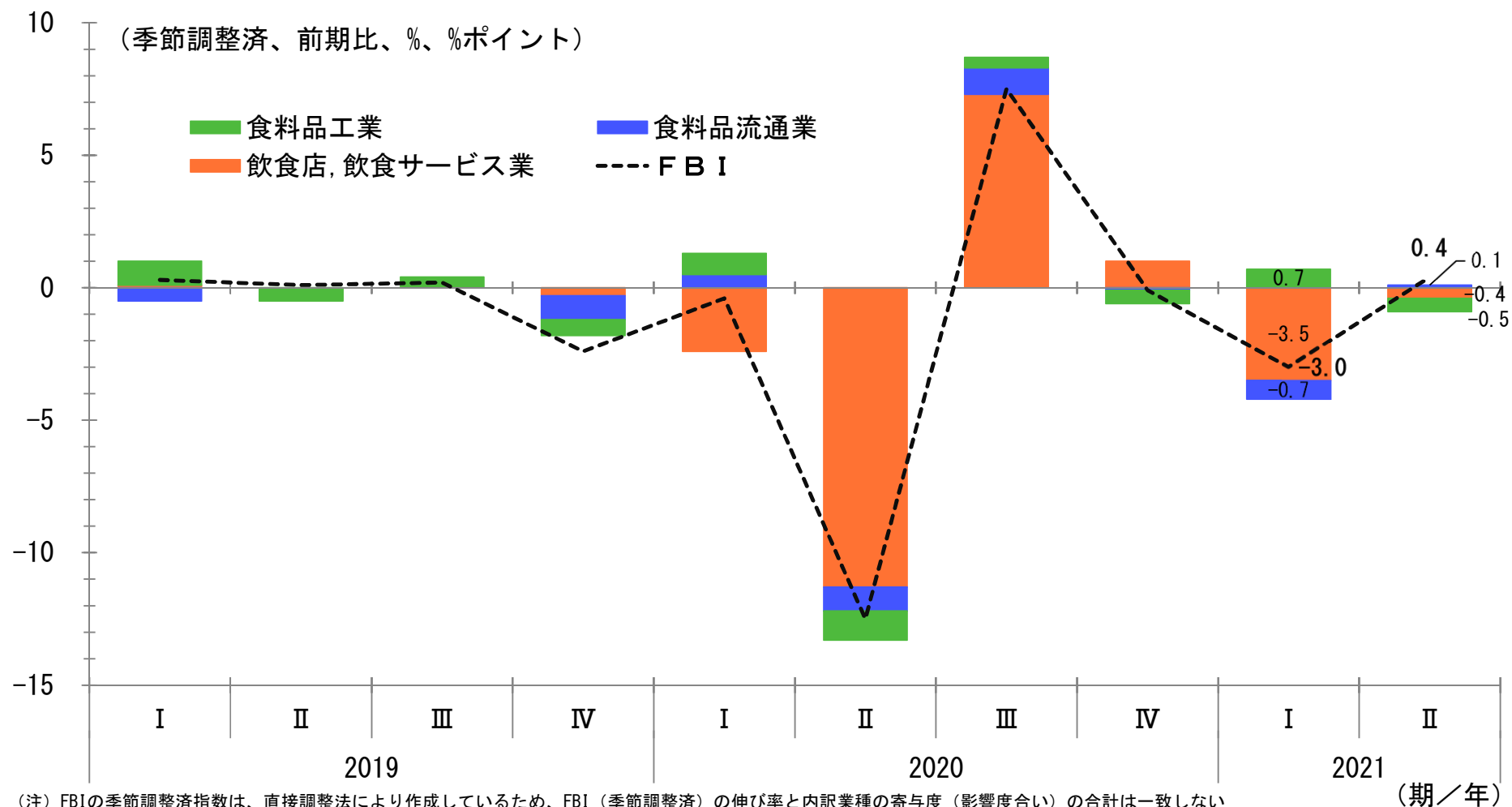
- 2021年上期、食料品流通業は第1四半期低下し、第2四半期はわずかに上昇。食料品工業は上昇と低下の繰り返しが続いており、第1四半期は上昇、第2四半期は低下。
- 「飲食店、飲食サービス業」は第1四半期に大きく低下し、続く第2四半期も低下。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」、「第3次産業活動指数」より作成 (試算値)

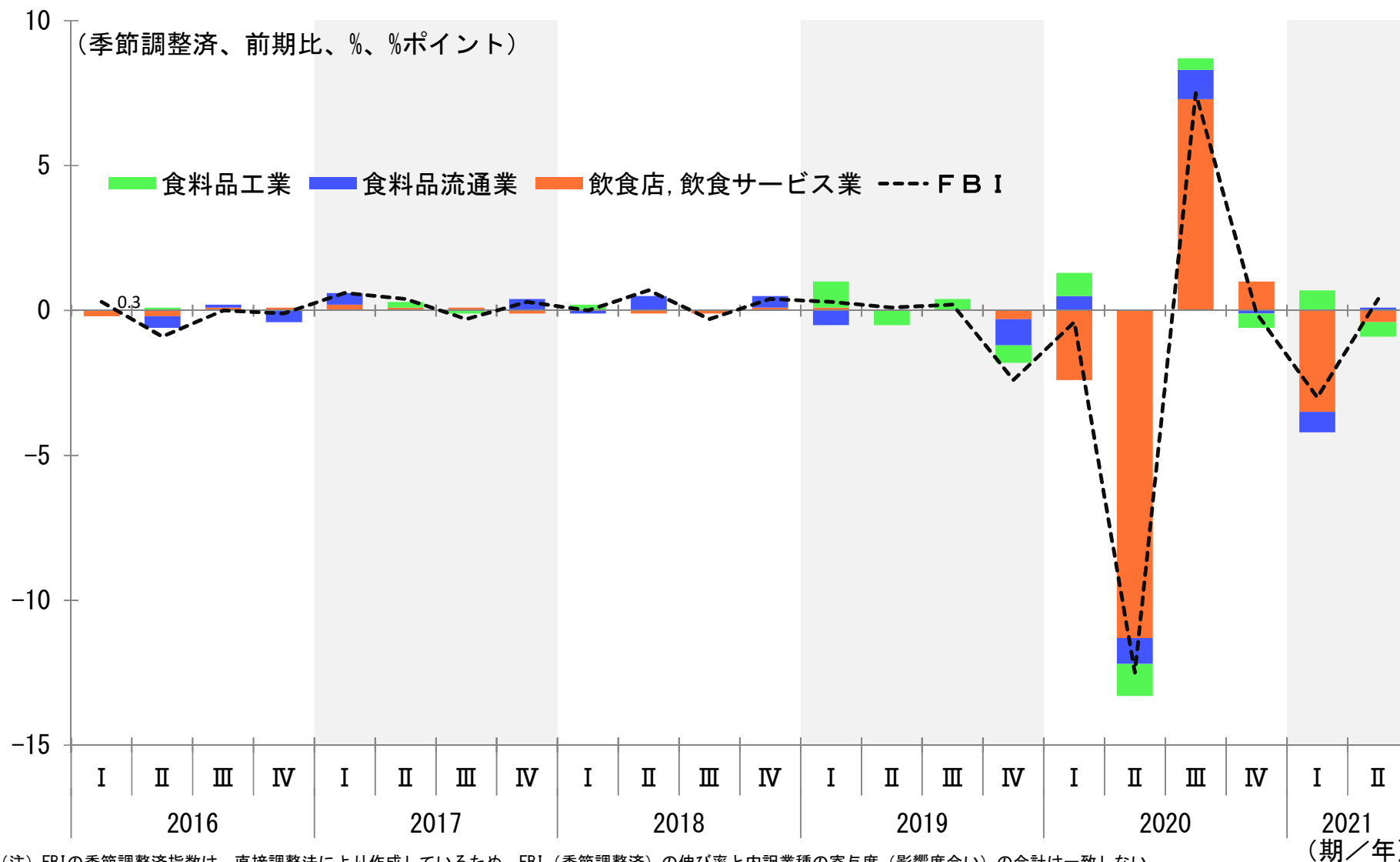
# FBI（季節調整済）の伸び率に対する内訳業種の影響度合い

- 2021年第1四半期は、食料品工業が上昇したものの、「飲食、飲食サービス業」の低下寄与大。第2四半期は食料品流通業が上昇に転じたものの、食料品工業と「飲食店、飲食サービス業」が低下した。
- 「飲食店、飲食サービス業」が2四半期連続で低下寄与。



# FBI（季節調整済）の伸び率に対する内訳業種の影響度合い

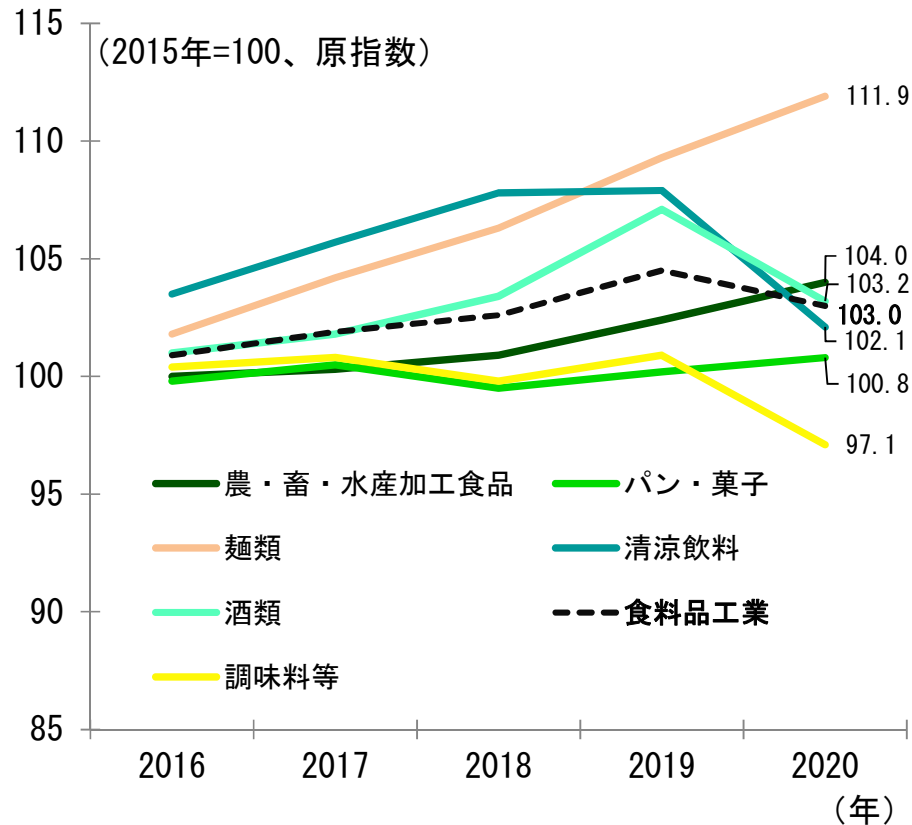
（過去5年）



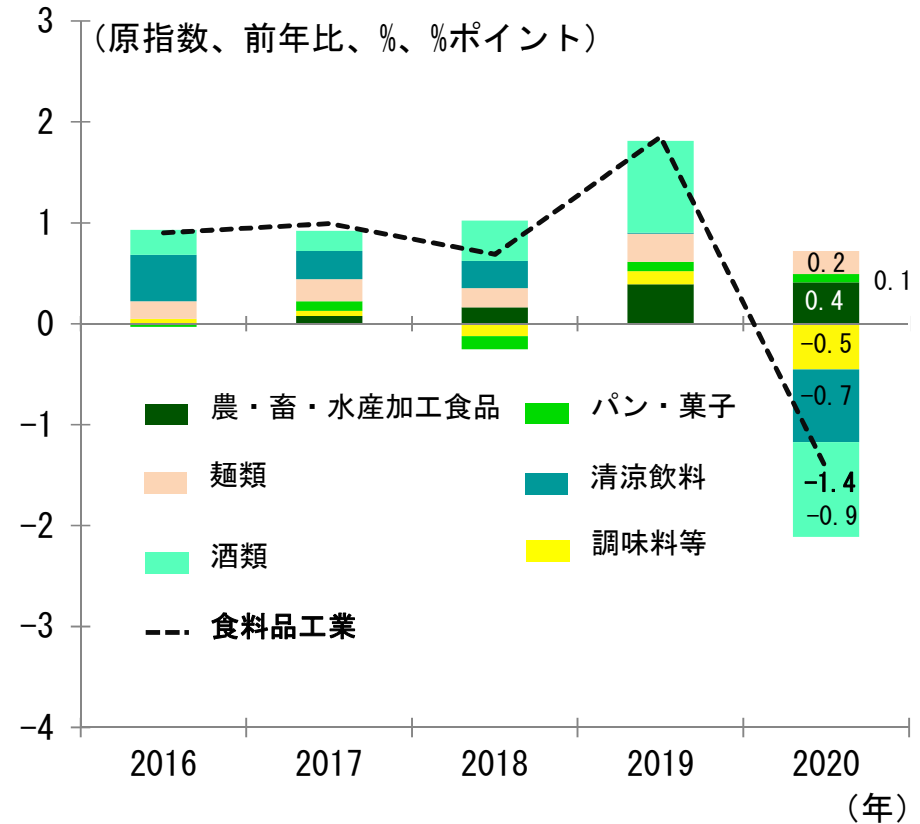
# 食料品工業（年単位の推移、内訳系列の影響度合い）

- 2020年の食料品工業の内訳系列は、酒類、清涼飲料、調味料等が前年比低下、他品目は同上昇。
- 2020年の食料品工業の前年比－1.4%に対して、酒類が－0.9%ポイント、清涼飲料が－0.7%ポイントの低下寄与。

## 指数の推移



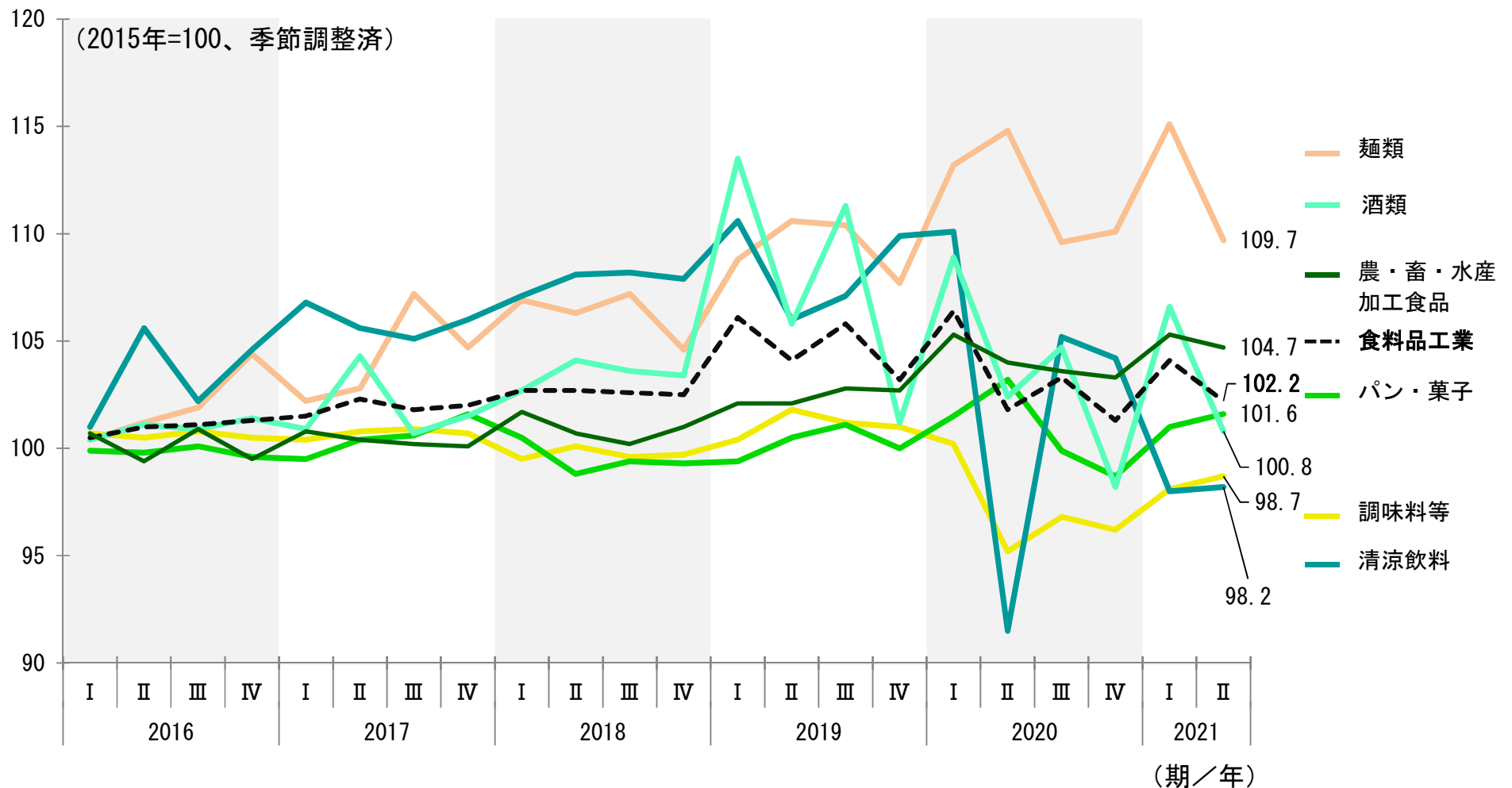
## 内訳系列の影響度合い



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成（間接調整法により計算、試算値）

# 食料品工業（季節調整済）内訳系列の推移

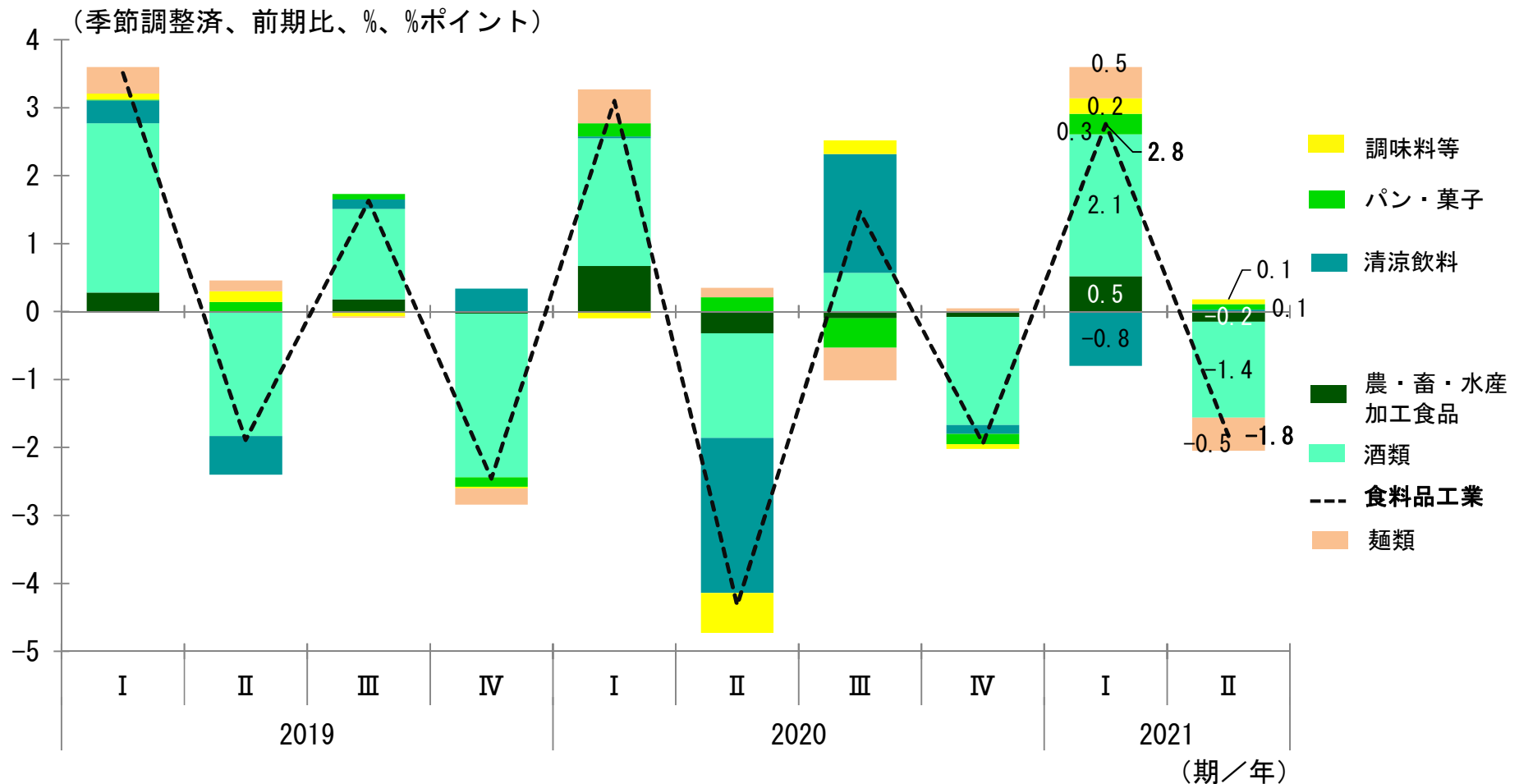
- 2021年上期は、第1四半期に清涼飲料を除いて大きく上昇したが、第2四半期にはパン・菓子、調味料以外は低下に転じた。清涼飲料は第1四半期に大幅低下、第2四半期はわずかな上昇と停滞。
- 酒類は2019年以降乱高下しながら低下傾向、麺類は上下動しながら上昇傾向が続く。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成 (間接調整法により計算、試算値)

# 食料品工業（季節調整済）の伸び率に対する各系列の影響度合い

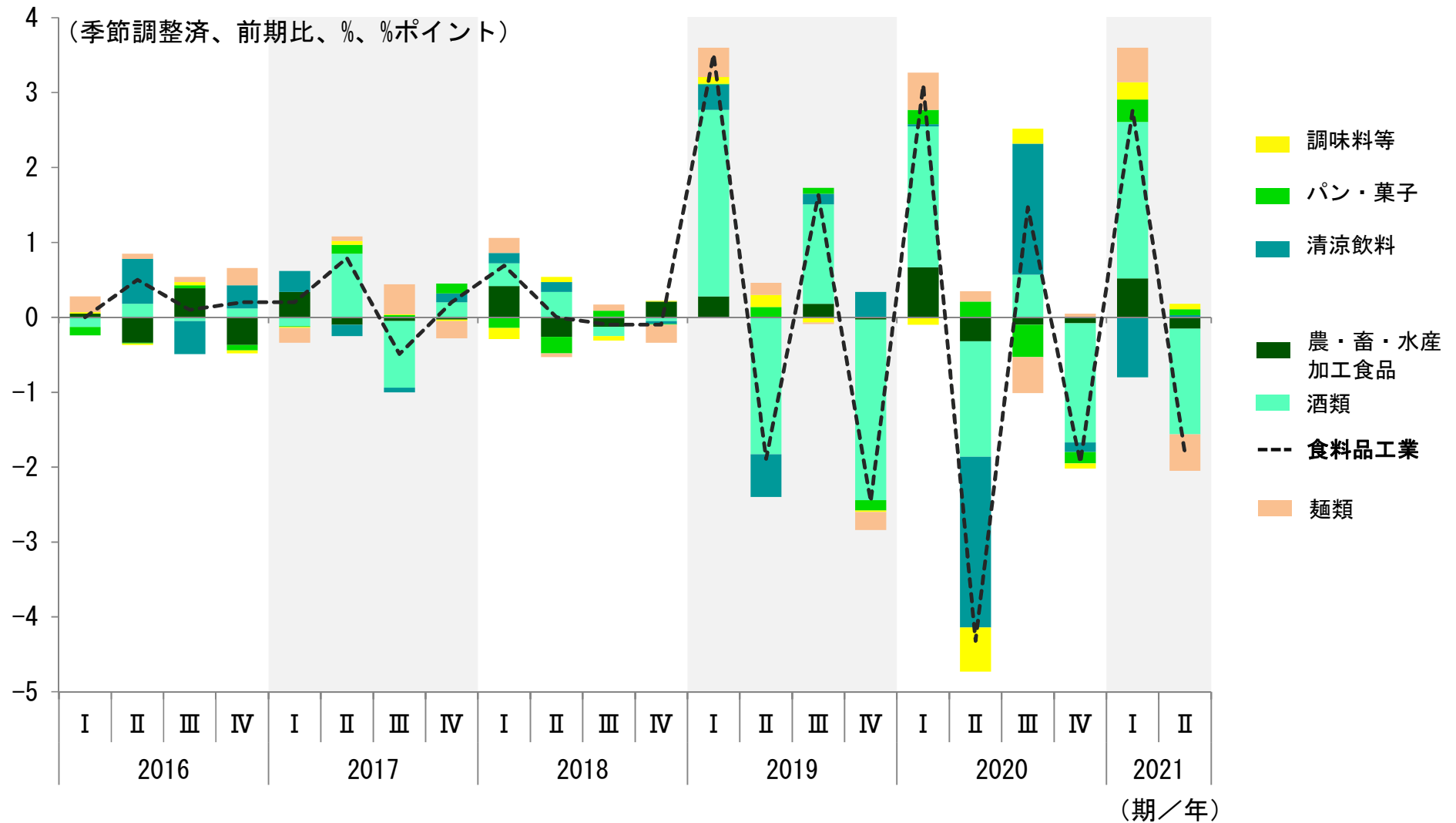
- 2021年上期は、前年と同様に酒類の急上昇と反動減による影響大。
- 第1四半期は、前期比2.8%に対し、酒類が2.1%ポイント、農・畜・水産加工食品と麺類がそれぞれ0.5%ポイントの上昇寄与。第2四半期は前期比-1.8%に対し、酒類が-1.4%ポイント、麺類が-0.5%ポイントの低下寄与。



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成 (間接調整法により計算、試算値)

# 食料品工業（季節調整済）の伸び率に対する各系列の影響度合い

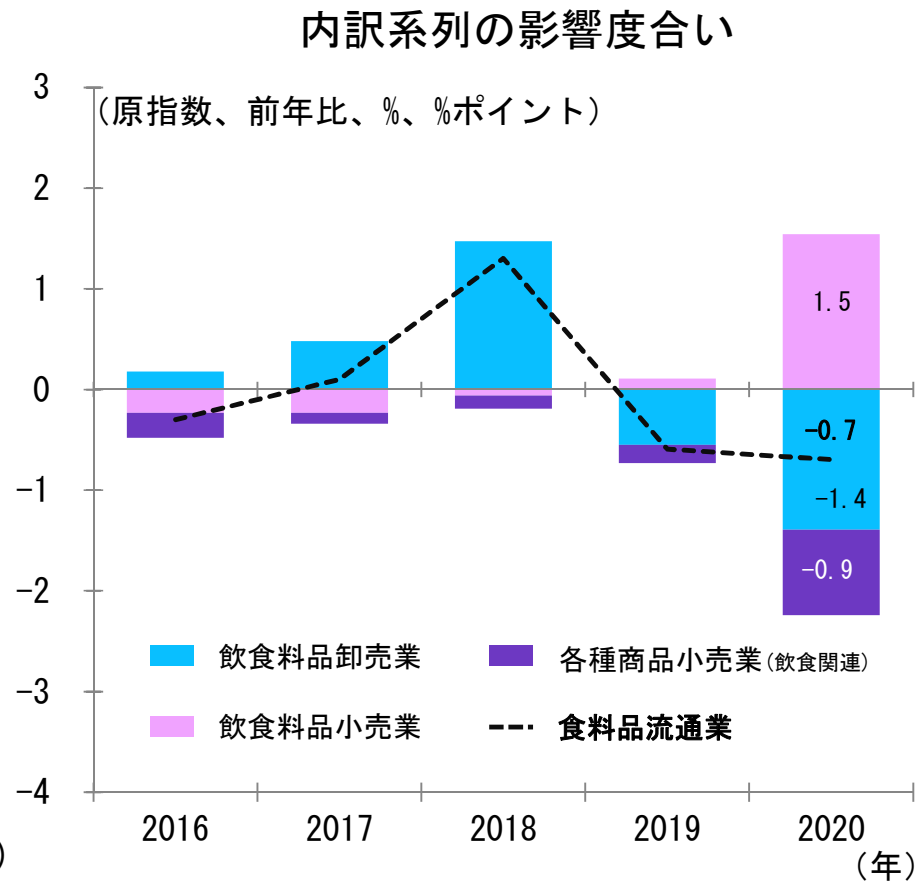
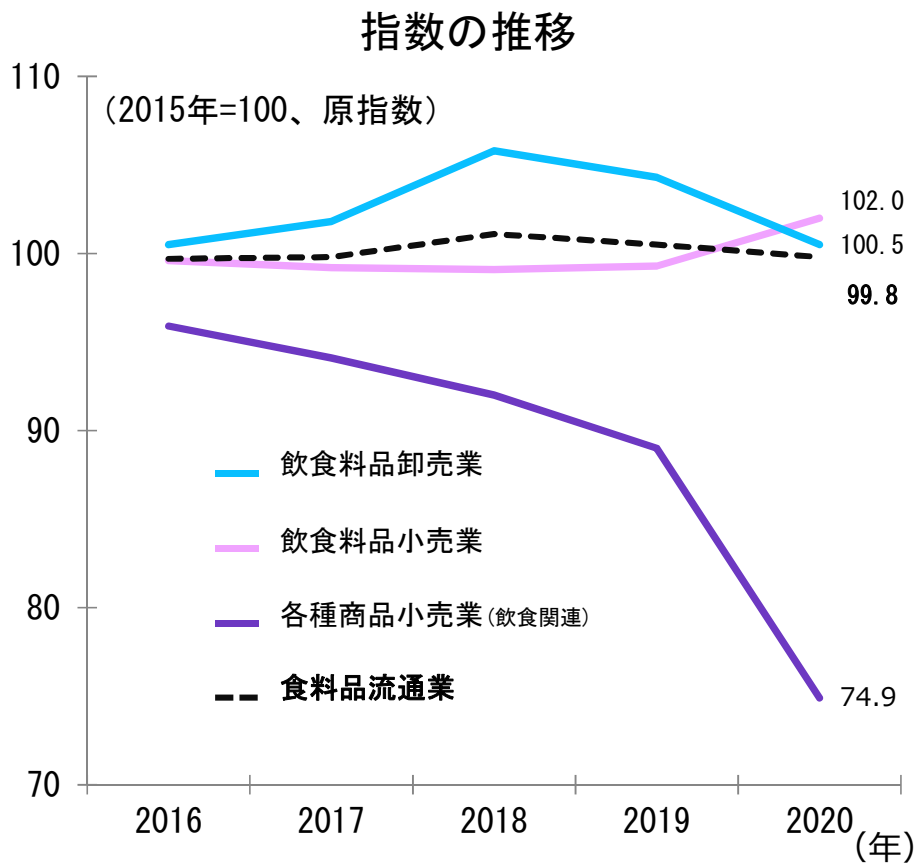
（過去5年）



(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成 (間接調整法により計算、試算値)

# 食料品流通業（年単位の推移、内訳系列の影響度合い）

- 2020年の食料品流通業の内訳系列は、飲食料品小売業が2年連続の上昇。飲食料品卸売業は2年連続の低下。各種商品小売業は引き続き低下。
- 2020年の食料品流通業の前年比-0.7%に対して、飲食料品卸売業が-1.4%ポイント、各種商品小売業が-0.9%ポイントの低下寄与。

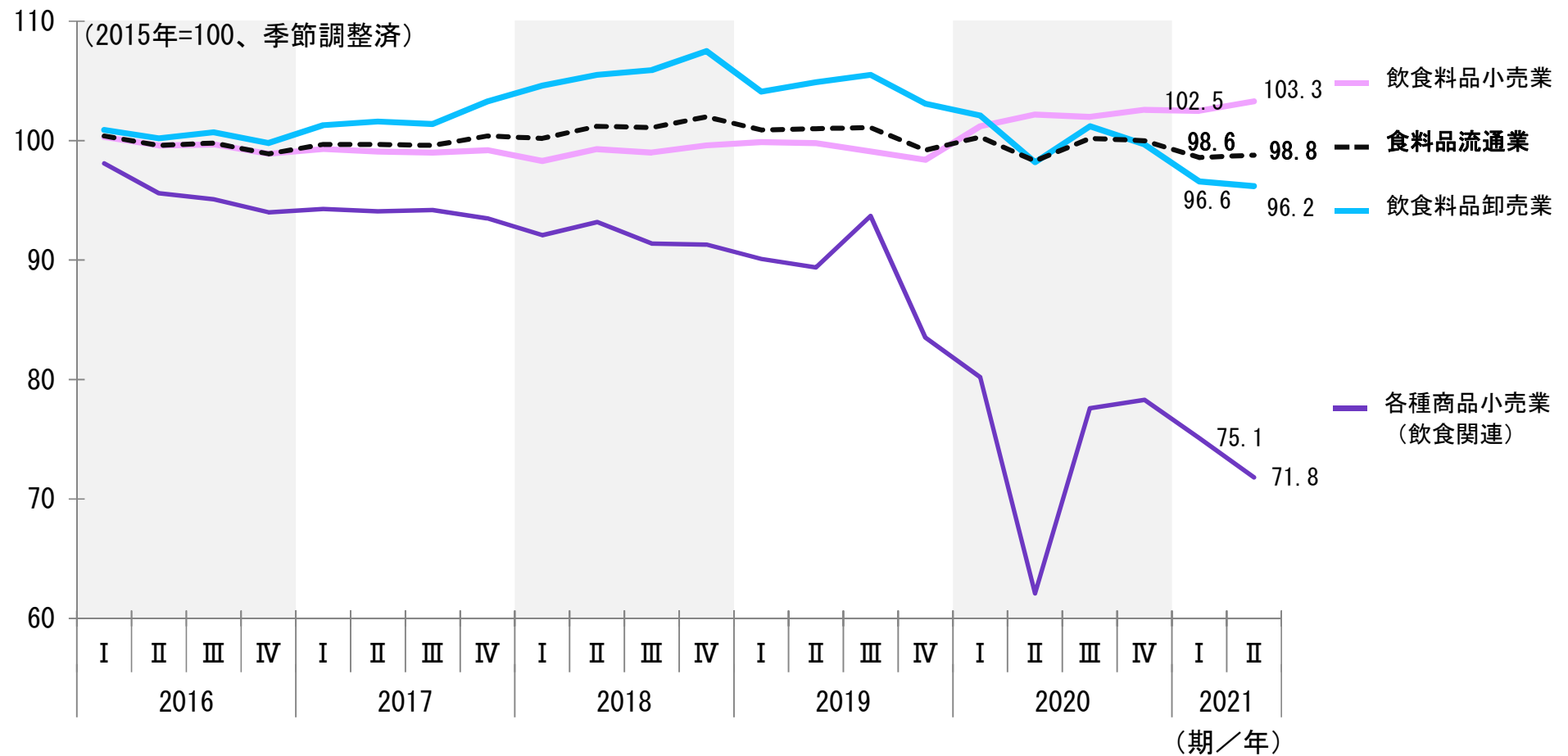


(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成(間接調整法により計算、試算値)



# 食料品流通業（季節調整済）内訳系列の推移

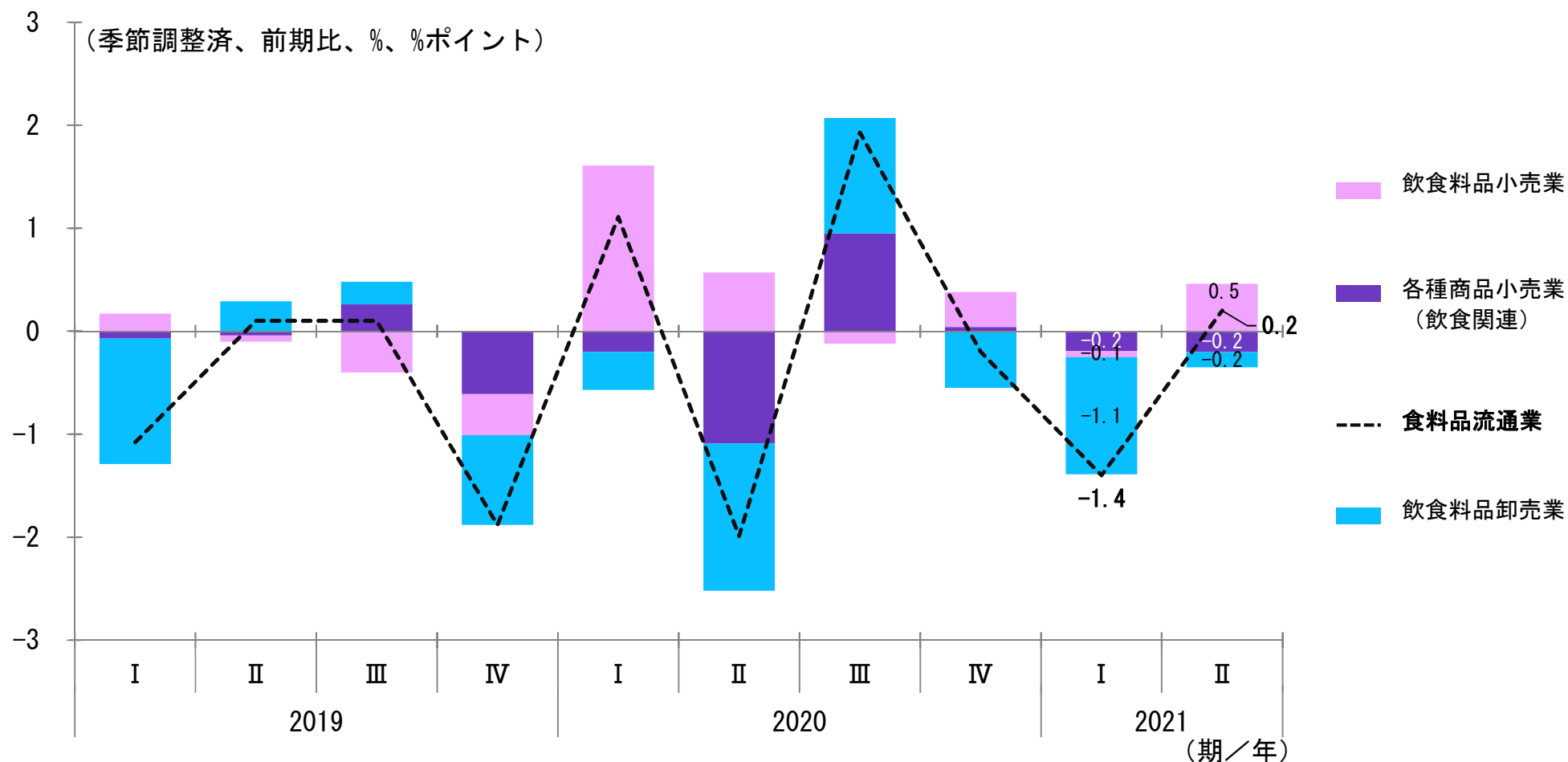
- 2021年上期は、飲食料品小売業が第1四半期に微減したものの、第2四半期は上昇。
- 飲食料品卸売業は3期連続で低下。各種商品小売業は2期連続で大きく低下、低下傾向が続く。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成 (間接調整法により計算、試算値)

# 食料品流通業（季節調整済）の伸び率に対する各系列の影響度合い

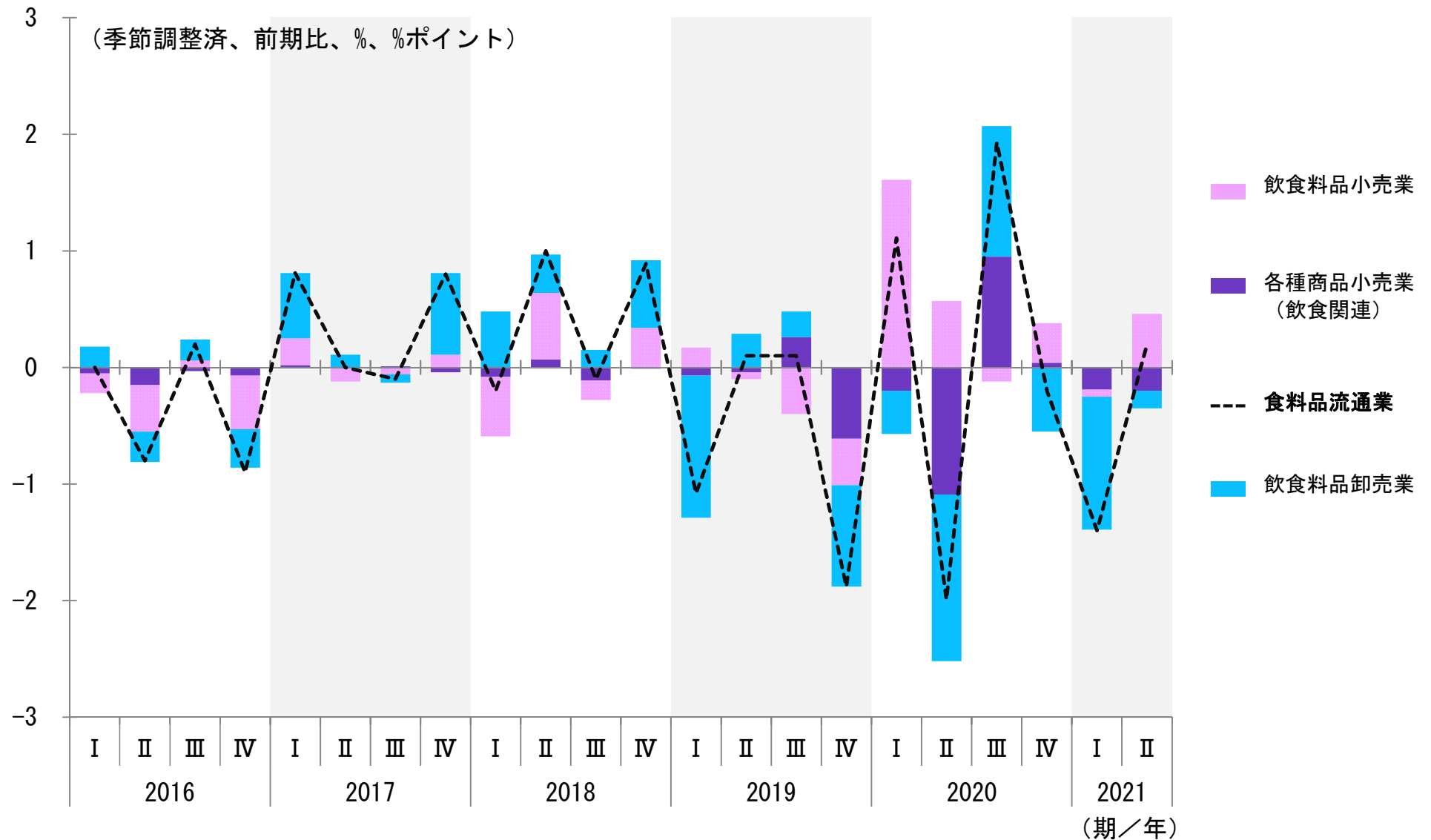
- 2021年上期は、第1四半期の前期比 $-1.4\%$ に対し、飲食料品卸売業が $-1.1\%$ ポイント、各種商品小売業が $-0.2\%$ ポイントの低下寄与。
- 第2四半期は前期比 $0.2\%$ に対し、飲食料品小売業が $0.5\%$ ポイントの上昇寄与。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成 (間接調整法により計算、試算値)

# 食料品流通業（季節調整済）の伸び率に対する各系列の影響度合い

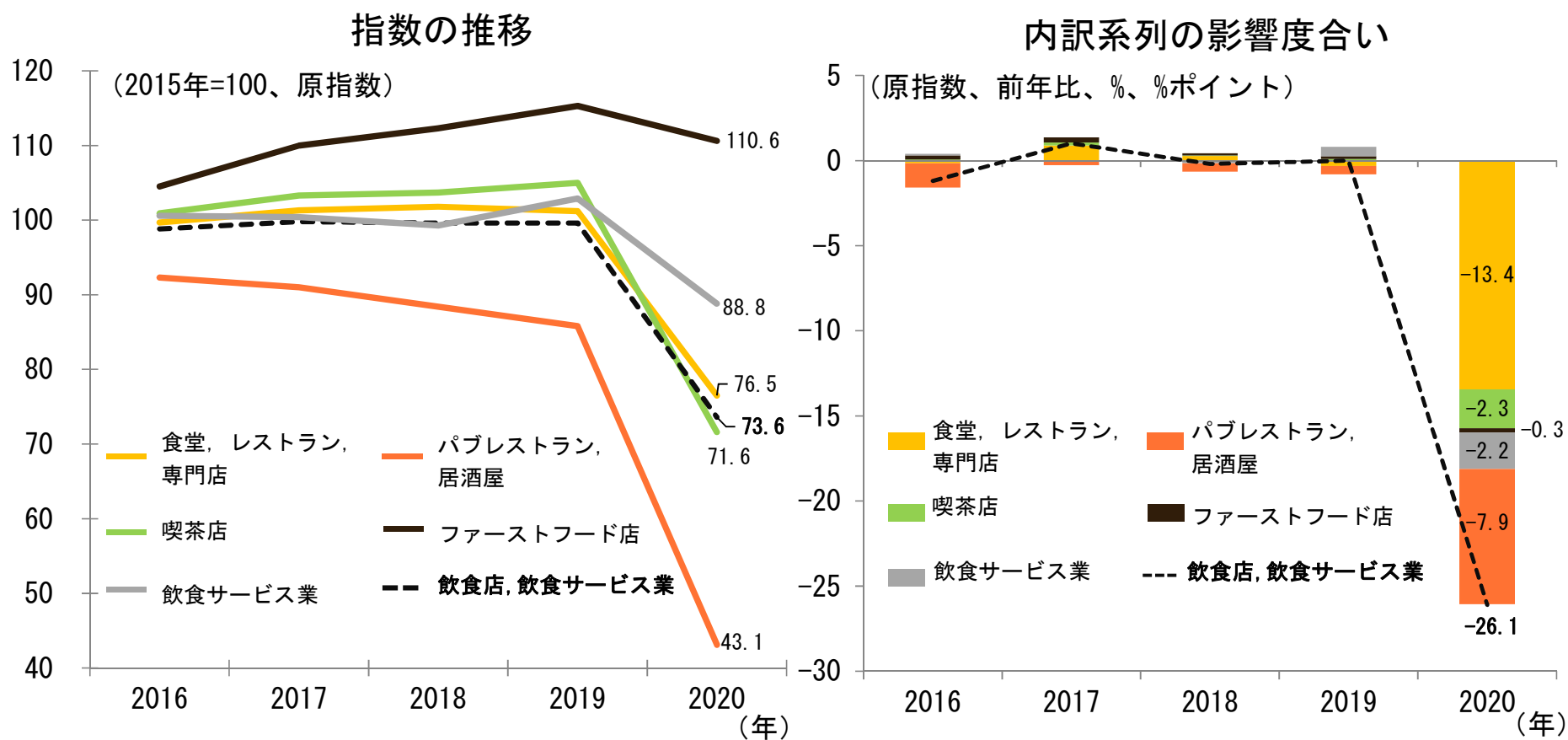
（過去5年）



（資料）経済産業省「第3次産業活動指数」より作成（間接調整法により計算、試算値）

# 飲食店, 飲食サービス業（年単位の推移、内訳系列の影響度合い）

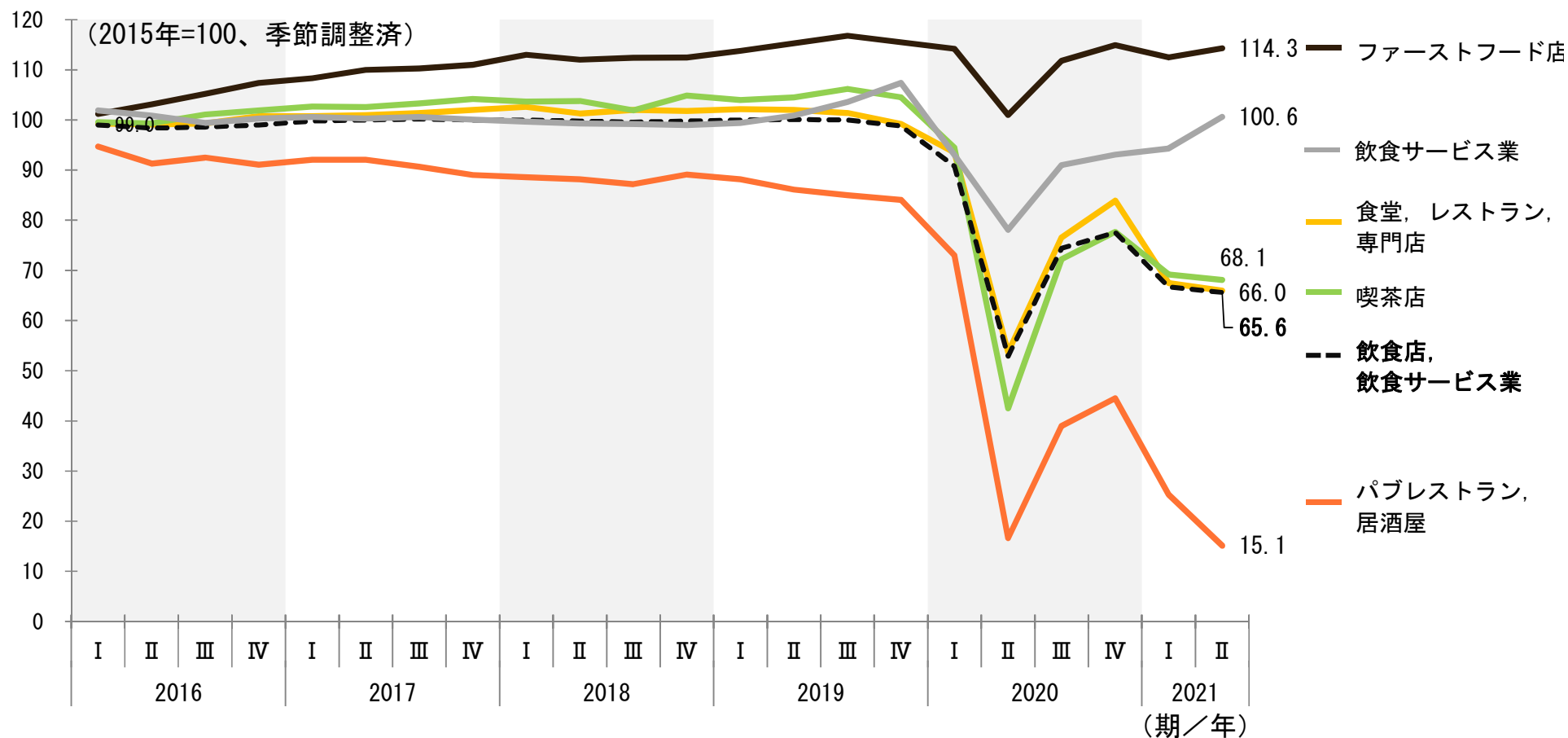
- 2020年の「飲食店, 飲食サービス業」の内訳系列は全系列が前年比低下。喫茶店は9年ぶり、ファーストフード店は5年ぶり、飲食サービス業は2年ぶりの低下。「食堂, レストラン, 専門店」は2年連続の低下。「パブレストラン, 居酒屋」は引き続き低下。
- 「食堂, レストラン, 専門店」、次いで「パブレストラン, 居酒屋」の低下寄与大。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成 (直接調整法、試算値)

# 飲食店, 飲食サービス業 (季節調整済) 内訳系列の推移

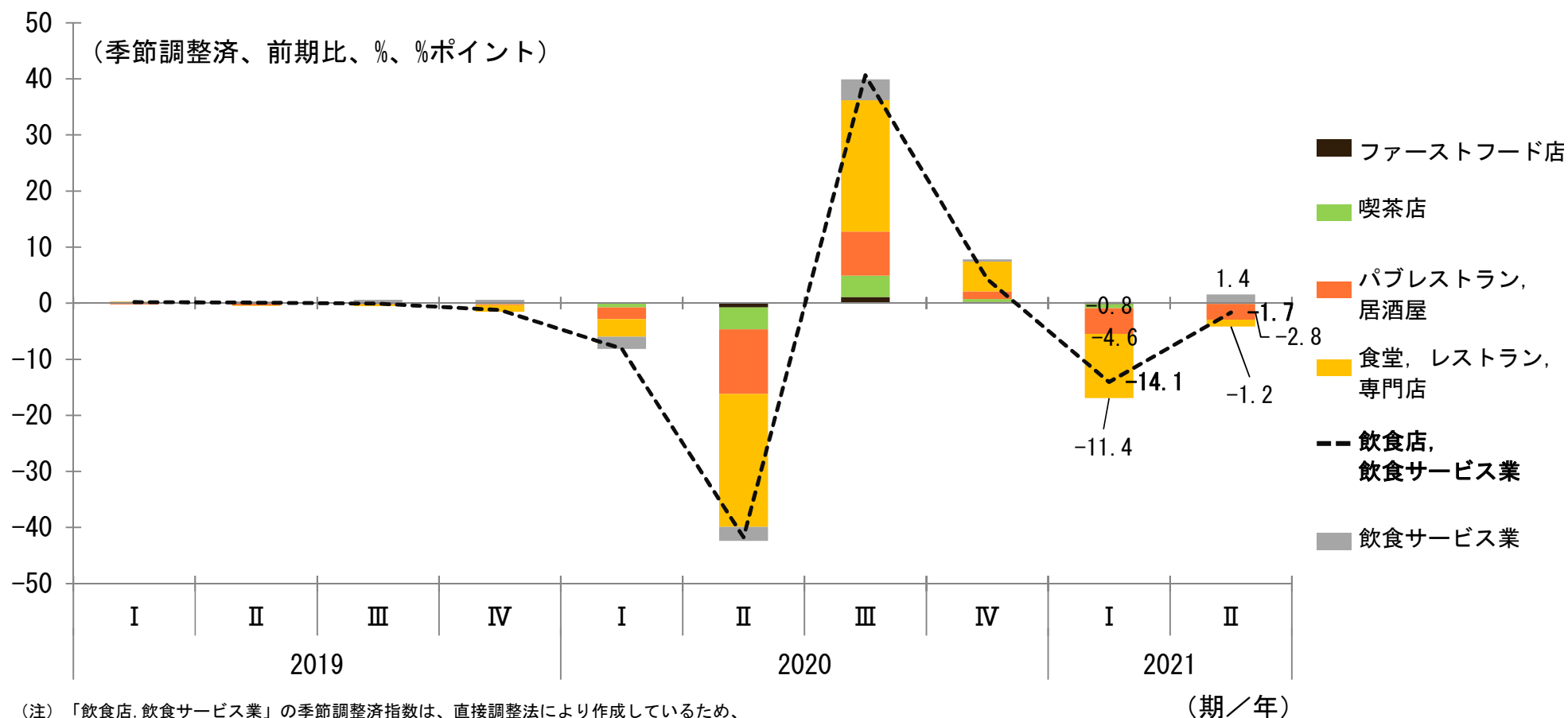
- 全内訳系列が共通の動きを見せた2020年に対し、2021年上期は喫茶店、「食堂, レストラン, 専門店」、「パブレストラン, 居酒屋」が第1四半期低下に転じ、第2四半期も引き続き低下。特に「パブレストラン, 居酒屋」は大幅低下。
- 他方、「ファーストフード店」、「飲食サービス業」はファーストフード店が第1四半期微減したものの2系列とも第2四半期は上昇。



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成 (直接調整法、試算値)

# 飲食店, 飲食サービス業 (季節調整済) の伸び率に対する各系列の影響度合い

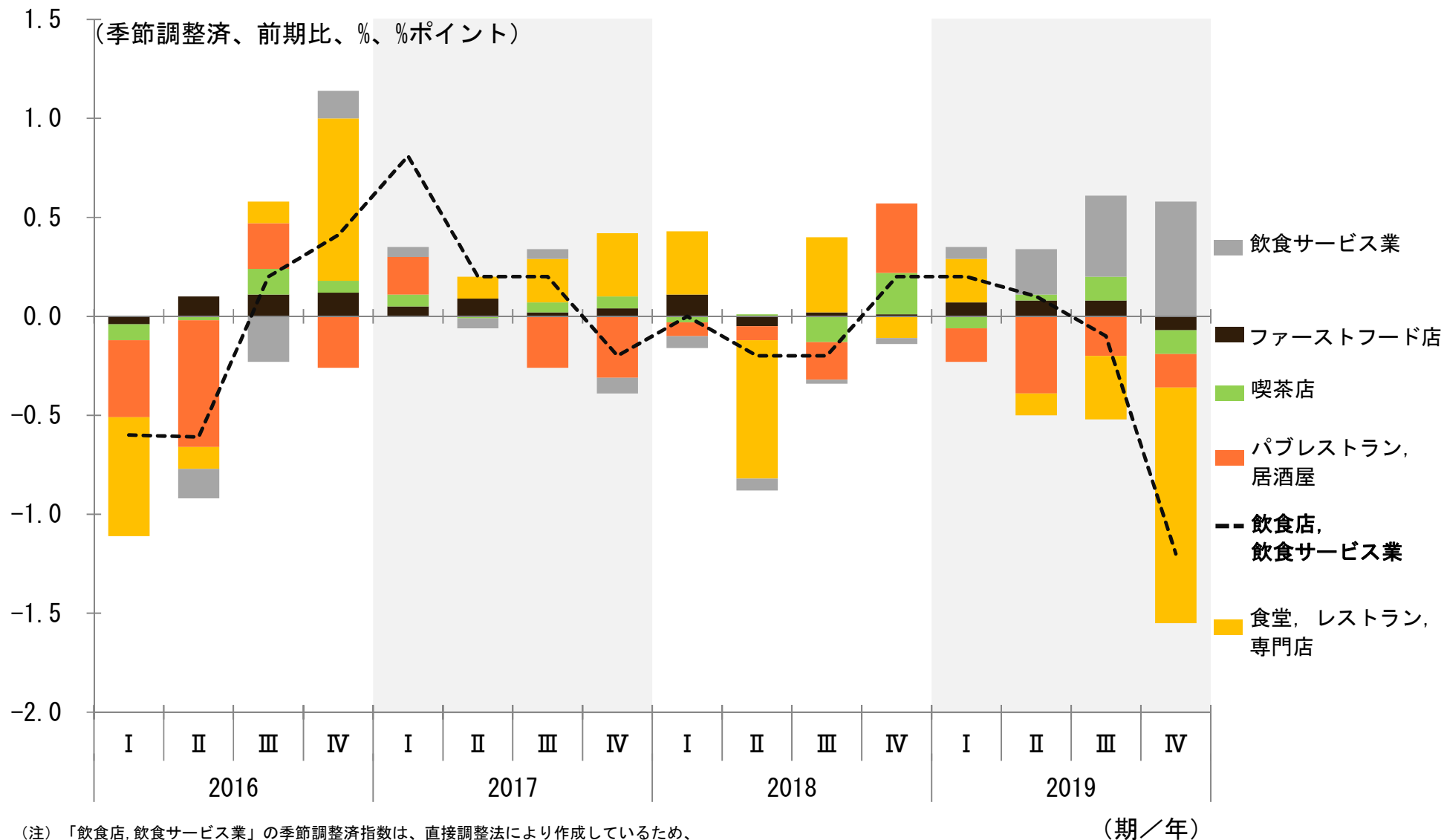
- 2021年上期は、第1四半期の前期比-14.1%に対し、「食堂, レストラン, 専門店」が-1.4%ポイント、次いで「パブレストラン, 居酒屋」が-4.6%ポイントの低下寄与。
- 第2四半期は前期比-1.7%に対し、「パブレストラン, 居酒屋」が-2.8%ポイント、「食堂, レストラン, 専門店」が-1.2%ポイントの低下寄与。



(注) 「飲食店, 飲食サービス業」の季節調整済指数は、直接調整法により作成しているため、  
「飲食店, 飲食サービス業」(季節調整済)の伸び率と内訳業種の寄与度(影響度合い)の合計は一致しない  
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成(直接調整法、試算値)

# 飲食店, 飲食サービス業（季節調整済）の伸び率に対する各系列の影響度合い

（過去5年、2020年含まず）



(注) 「飲食店, 飲食サービス業」の季節調整済指数は、直接調整法により作成しているため、  
 「飲食店, 飲食サービス業」（季節調整済）の伸び率と内訳業種の寄与度（影響度合い）の合計は一致しない  
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成（直接調整法、試算値）

## 2021年上期のFBIまとめ

■2021年上期のFBIは、第1四半期は指数値90.3、前期比-3.0%と大きく低下。「飲食店,飲食サービス業」の低下寄与が大。第2四半期は指数値90.7と上昇に転じ、前期比0.4%に対して、食料品流通業が0.1%ポイントの上昇寄与。

- 食料品工業は、前年と同様に、酒類の上昇・低下寄与大。清涼飲料が第一四半期大きく低下し、第二四半期微増したが停滞。
- 食料品流通業は、各種商品小売業が2期連続で大きく低下、飲食料品卸売業も3期連続で低下したものの、飲食料品小売業が第2四半期に前期比上昇し、全体としては上昇。
- 「飲食店,飲食サービス業」は、「飲食サービス業」が第1・第2四半期連続で上昇するも、「食堂,レストラン,専門店」等3系列が第1四半期低下に転じ、続く第2四半期も低下、全体として低下。



# 【掲載図表の補足事項】

(注1)

1. フード・ビジネス・インデックス (FBI) は、鉱工業指数 (2015年基準) の「肉加工品」、「乳製品」、「水産・野菜食料品」、「食用油脂」、「調味料」、「糖類」、「製粉・調整粉」、「パン・菓子」、「麺類」、「清涼飲料」、「酒類」と第3次産業活動指数 (2015年基準) の「飲食料品卸売業」、「飲食料品小売業」、「各種商品小売業 (飲食関連) (※1)」、「食堂、レストラン、専門店」、「パブレストラン、居酒屋」、「喫茶店」、「ファーストフード店」、「飲食サービス業※2」を2015年の産業連関表の粗付加価値額構成割合 (試算値) を用いて調整したウェイトで加重平均し試算。FBI総合指数の季節調整値は直接調整法にて算出。
  - ・食料品工業の各系列のウェイト=鉱工業指数のウェイト×0.2296
  - ・食料品流通業、飲食サービス業の各系列のウェイト=第3次産業活動指数のウェイト×0.7704※1 衣、食、住にわたる各種の商品を一括して一事業所で小売する事業所が分類される。百貨店、総合スーパーなどにその例が多い。指数値は第3次産業活動指数の「各種商品小売業」と同値。ウェイトは「各種商品小売業」のウェイトに、2015年の商業動態統計調査 (経済産業省) の各種商品小売業の販売額に占める飲食料品の割合を乗じたもの (参考系列のため非公表)。
  - ※2 第3次産業活動指数における「飲食サービス業」とは、持ち帰りや配達などを主とした飲食サービス業。
2. 食料品工業は、鉱工業指数 (2015年基準) の、「農・畜・水産加工食品」(「肉加工品」、「乳製品」、「水産・野菜食料品」の加重平均値)、「調味料等」(「食用油脂」、「調味料」、「糖類」、「製粉・調整粉」の加重平均値)、「パン・菓子」、「麺類」、「清涼飲料」、「酒類」の加重平均値 (間接調整法)。
3. 食料品流通業は、第3次産業活動指数 (2015年基準) の「飲食料品卸売業」、「飲食料品小売業」、「各種商品小売業 (飲食関連)」の加重平均値 (間接調整法)。
4. 飲食店、飲食サービス業は、第3次産業活動指数 (2015年基準) の「飲食店、飲食サービス業」 (直接調整法)。第3次産業活動指数の「食堂、レストラン、専門店」、「パブレストラン、居酒屋」、「喫茶店」、「ファーストフード店」、「飲食サービス業」の加重平均値。

(注2)

1. 「食料品工業」は、2020年工業統計調査 (製造品出荷額は2019年の実績) の「食料品製造業製造品出荷額」と「飲料たばこ飼料製造業製造品出荷額」から「飼料・有機質肥料製造業製造品出荷額」と「たばこ製造業製造品出荷額」を控除したものの合計値 (2019年) (※2)。2020年は、※2を鉱工業出荷指数の「食料品・たばこ工業」の2020年前年比で伸ばした数値を、企業物価指数の「飲食料品」の2020年伸び率でインフレートした推計値。
2. 「食料品関連卸売業」は、商業動態統計調査の「農畜産物・水産物卸売業」と「食料・飲料卸売業」の2019 (2020) 年計の合計。
3. 「食料品関連小売業」は、商業動態統計調査の「飲食料品小売業」と百貨店の商品内訳の飲食料品販売額の2019 (2020) 年計の合計。
4. 「飲食店、飲食サービス業」は、(一社) 日本フードサービス協会公表の「広義の外食産業の2019年市場規模」 (※3)。2020年は、※3を第3次産業活動指数の「飲食店、飲食サービス業」の2020年前年比で伸ばした数値を消費者物価指数の「外食」の2020年伸び率でインフレートした推計値。

(注3)

1. 「食料品工業」は、平成28年経済センサス-活動調査の「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」の事業所数 (従業者数) の合計値から、「飼料・有機質肥料製造業」と「たばこ製造業」の事業所数 (従業者数) を除いている。
2. 「食料品関連卸売業」は、平成28年経済センサス-活動調査の「飲食料品卸売業」の事業所数 (従業者数)。
3. 「食料品関連小売業」は、平成28年経済センサス-活動調査の「飲食料品小売業」の事業所数 (従業者数)。
4. 「飲食店、飲食サービス業」は、平成28年経済センサス-活動調査の「飲食店」と「持ち帰り・配達飲食サービス業」の事業所数 (従業者数) の合計値。


## 問い合わせ先

---

経済産業省大臣官房調査統計グループ 経済解析室

電話：03-3501-1644（直通）

Email：[qqcebc@meti.go.jp](mailto:qqcebc@meti.go.jp)

色々な分析、  
あります

---